

直感的な操作で使えるテキストビューア

lookat / bekijk

バージョン: 1.2

ライセンス: フリー

<http://staf.digibel.org/topic.php?lang=eng&top=lookat>

●ビルドから起動まで

lookat / bekijkは、ソース一式をtar + gzipしたtarボールのみ配布されている。configureスクリプトは含まれていないが、たいていのLinuxのディストリビューションではMakefileを修正する必要はない。そのまま「make」でビルドし、「su」でrootになってから、「make install」としてインストールしよう。

以下では、lookatについて説明するが、bekijkもメニューなどの表示が異なるだけで機能は同じだ。なお、X上でlookat / bekijkを利用する際、表示

色の関係でktermでは文字が見にくくなってしまいますので、代わりにrxvtを利用したほうがいいだろう。

●テキストファイルを快適に閲覧

Linuxのコンソールか、X上の端末ソフト (rxvtなど) のコマンドラインで「lookat」とすると、lookatが起動してファイル選択ダイアログが開く (画面1)。「lookat ファイル名」のように、コマンドライン引数でファイル名を指定することも可能だ。

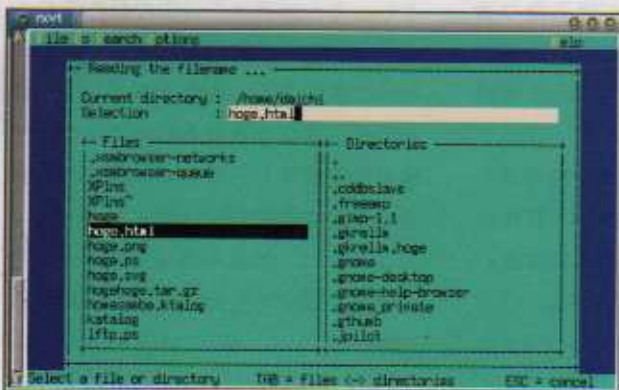
いずれにせよ、ファイルの内容が端末画面のほぼ全体に表示される。ただ

し、画面の最上行はメニューの表示、最下行はファイル名や行番号などの表示に使われる (画面2)。

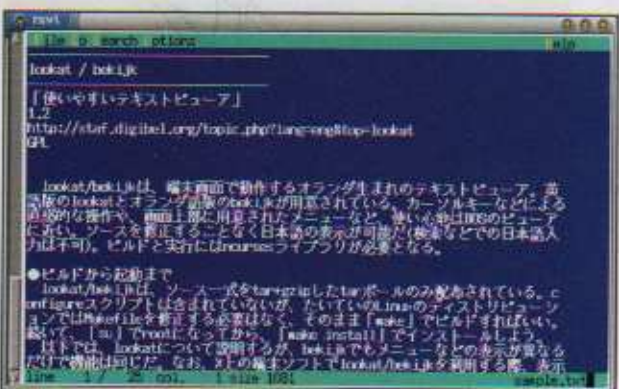
スクロールなどの操作はキーボードで行う。カーソルキーやPageUp / PageDownキー、Home / Endキーなど、直感的に使い方がわかるキーのほか、一部の操作はlessやEmacs風のキー割り当てになっている。

最上行のメニューは、Alt-英字キーで開ける。英字キーはメニュー先頭の文字で、FileメニューならAlt-Fキー、HelpメニューはAlt-Hキーだ。たとえば、lookatのキー操作を一覧表示するには、Alt-HキーでHelpメニューを開き、[Keys]を選択すればいい。メニュー項目の選択には、カーソルキーとEnterキーを使う。

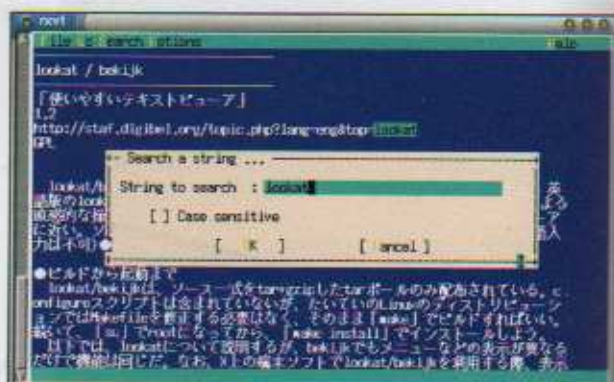
キーを押すか、[Search]-[a string]を選択すると、検索用ダイアログが開いて、指定した文字列を検索できる (画面3)。*キーによる再検索も可能だ。なお、検索文字列に日本語は入力できないので気をつけよう。



画面1 起動時にファイル名を省略した場合は、この画面で選択する。



画面2 青い背景に白い文字のビューア画面。日本語も表示可能だ。



画面3 文字列検索などは上部のメニューから選択する。